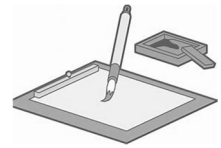


第15回 宮古島市民総合文化祭

「児童・生徒の部」



今年は、新型コロナウイルスの影響により、作品展示会は中止となりましたが、例年通り作品の募集、審査を行いましたので、応募作品総数と市長賞作品をご紹介します。



書道部門



平良第一小学校1年
おおaura れいじさん



伊良部島小学校3年
長濱 彩さん



平良第一小学校4年
古見 隆翔さん



鏡原小学校5年
反利 心羽寧さん



平良第一小学校6年
久井 萌佳さん



城辺中学校1年
金城 萌さん



上野中学校2年
宮国 葵生さん



久松中学校3年
西里 志織さん



宮古高等学校2年
砂川 莉惟さん



伊良部島小学校2年
にかりりこさん

美術部門

※特別支援は該当者なし



城辺小学校1年
國仲 望美さん



西辺小学校2年
安里 基治さん



下地小学校3年
島尻 凜花さん



砂川小学校4年
友利 鈴菜さん



西辺小学校5年
安里 穂歩さん



平良第一小学校6年
砂辺 かな子さん



北中学校2年
兼本 桜子さん



久松中学校3年
椎屋 萌さん



宮古高等学校3年
吉濱 美雅さん



西城小学校3年
國吉 陸斗さん

※中学校1年は該当者なし



応募作品数 2,831点

| | |
|------|--------|
| 書道 | 502点 |
| 美術 | 212点 |
| 俳句 | 1,015点 |
| 短歌 | 496点 |
| 作文 | 37点 |
| 詩 | 263点 |
| 自由研究 | 83点 |
| 工作 | 223点 |

文芸部門

俳句

- ・「キビのなえ足でふみふみおてつだい」
- ・「花火見る弟の目が赤・青・黄」
- ・「ゆりかごに向けて昭和のせんぷうき」
- ・「首すじに部活の名残君の汗」
- ・「かつおせんパヤオめがけてつっぱしれ」

南小学校2年 池城 美寿さん
 下地小学校4年 友利 謙心さん
 下地小学校6年 佐久川 藍希さん
 宮古総合実業高等学校1年 砂川 晏慈さん
 伊良部島小学校3年 山原 優希さん

※中学校は該当者なし

短歌

- ・「あさがおにおみずをあげておまじないおおきなあれわくわくするよ」
- ・「夏休みぼくは小さなコックさん母の手伝いで前アップ」
- ・「自しゆく中頼まれた家事やるごとに母の苦勞と偉大さを知る」
- ・「さとうきび刈り取るたびにほとぼしる汁の甘さに蟻が群がる」
- ・「確率を習ったすぐの席替えて君の隣の確率計算」
- ・「平泳ぎ一キロ超えてうれしくて先生としたハイタッチかな」

下地小学校1年 古波蔵 美空さん
 久松小学校3年 島尻 蒼生さん
 平良第一小学校6年 奥平 結女佳さん
 西辺中学校1年 盛島 みくさん
 宮古高等学校3年 陸 蓮苑さん
 平良中学校3年 勝連 璃空さん

自由研究部門



平良第一小学校3年 久井 亮さん

東小学校1年 佐藤 茉果夏さん

東小学校6年 佐藤 茉陽夏さん

工作部門

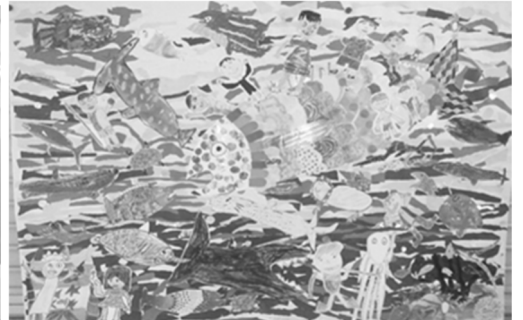
※中学校・特別支援は該当者なし



下地小学校1年 多和田 旺誠さん



平良第一小学校5年 高良 大和さん



北小学校 支援学級合同作品

※小学校中学年・中学校は該当者なし

報告



手わざ 琉球王国の文化

琉球王国文化遺産集積・再興事業・巡回展

宮古島市総合博物館では、11月8日(日)～11月22日(日)の期間、沖縄県立博物館・美術館主催の巡回展「手わざー琉球王国の文化ー」を開催しました。

琉球王国時代から継承されてきた有形無形の文化遺産は、近代化や先の大戦などによりその多くを失ってきました。そこで、沖縄県は、残された文化遺産から得られる学術的知見や科学分析等の情報を集積するとともに、王国時代にあった8つの手わざ(絵画、木彫、石彫、染織、漆芸、陶芸、金工、三線)を現代の手わざで復元する「琉球王国文化遺産集積・再興事業」を開始しました。平成28年度より資料の模造復元品製作が行われ、昨年度までに60件の模造復元品が完成しています。

今回の巡回展では24件の模造復元品とその手本となったオリジナル作品が5件、その他製作工程のパネルや映像、参考資料なども展示されました。宮古に関連する作品としては、ドイツのベルリン国立民族学博物館や東京の日本民藝館に所蔵されている宮古上布の模造復元品も展示されており、現代の手わざで忠実に復元された琉球王国時代の「美」を堪能できる内容でした。

模造復元品とは…

ある作品について調査・研究を重ね、製作された当時の姿を忠実に復元したものを新たに製作することを指し、製作においては、可能な限り、製作当時と同じ材料と技法を用いる。



「手わざ展」入口



しるじりゆうすいししゅうぶちようつばめちんようびんがた
白地流水草蒲蝶燕文様紅型
ちよまいししゅう
苧麻衣装



ちよまきいろじたてよこがすりいししゅう
右:苧麻黄色地経緯緋衣装
ちよまこんじたてよこがすりひらありいししゅう
左:苧麻紺地経緯緋平織衣装

宮古上布の紹介

宮古上布

苧麻をクモの糸のように細く績まれた糸で織られ、強くしなやかで通気性に富んでいます。トンボの羽のように軽く、艶とハリがあり三代持つと言われるほど丈夫です。

その伝統技術が今日に至るまで継承され、越後上布、小千谷縮と並んで日本の上布の代表的織物と言われています。

※ 上布：夏の衣服等に用いる高級な麻織物
績む：植物繊維をより合わせる高価な麻織物

歴史

一五八三年に栄河氏真栄の妻稲石が、宮古上布の始まりといわれる「綾錆布」を琉球王国へ献上したのが宮古の織物が広く知られるようになった始まりです。

一六三七年に琉球王府への貢納布として定められ、琉球王府の管理体制の元でその製織技術は大きく発展しました。

一八七九年琉球王国が廃され沖縄県となり、織りの技術改革等がなされ、島の産業として発展しました。

大正から昭和にかけての最盛期には年間約二万反生産されていましたが、現在は年間数十反と減少しています。

製作技法

- 苧麻糸手績み
- 緋括り
- 染色
- 織り
- 洗濯・砧打ち



大きく五つの行程があり、長年の経験によって培われた高度な技術を持った職人が携わっています。中でも上布の命とも言わべき手績みの糸づくりは極めてすぐれた技術といわれています。

指定

- 宮古上布
- 一九七五年 「経済産業大臣指定伝統工芸品」
- 制作技術
- 一九七七年 「沖縄県指定文化財」
- 一九七八年 「国指定重要無形文化財」
- 二〇〇三年 「国選定保存技術」(苧麻糸手績み)



資料提供：宮古上布保持団体